



Title	授業実践と演習を通じた学びの獲得：ある韓国人留学生の場合
Author(s)	齋藤, 眞宏
Citation	日本国際理解教育学会第19回研究大会, 平成21年6月13日～平成21年6月14日, 同志社女子大学、京都府京田辺市.
Issue Date	2009-06-14
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/39975
Type	conference presentation
File Information	saito_JAIEc19.pdf



[Instructions for use](#)

授業実践と演習を通じた学び の獲得 : ある韓国人留学生の場合

日本国際理解教育学会第19回大会

2009年6月14日

於 同志社女子大学

旭川大学 齋藤眞宏

1. 教職課程教員としての問題意識

- ①教育とは、うまく行くか行かないかは確率の問題
- ②教師と生徒は「異文化」に所属している→様々な意味での「共生」へ
- ③教師は「独裁者」ではなく「リーダー」である

2. 「教職ゼミ」を担当するにあたって

学生が「学びの主人公」

理論と実践の「出会い」

※教育の考察を通じて「自己」を意識し、「自分の思い」を深めることから「問題」を自分のものとして捉え、批判的に思考する能力を養い、独自の教育観・教師観を育成する。

→学習共同体としての「教職ゼミ」

3. 本研究の目的

留学生Aの省察的実践と学びの獲得の検証

→個々の学生の学びの検証を積み重ねることは、「学習援助者」としての大学教師の学びにもつながり、さらにはシステムとしての教師教育の改善にもつながる。

4. 省察的実践について

問題解決の過程で、自分自身及び自分の教育活動を多様な視点から構築し再構築するために、過去の経験と現在の環境、学説、見識を専門職としてのアイデンティティをもとに無意識的にあるいは意識的に、有機的に結合するための営み

(1) Schönの省察的実践

① Reflection – in – action

実践中における考察

(Schön, 1986, p.xi)

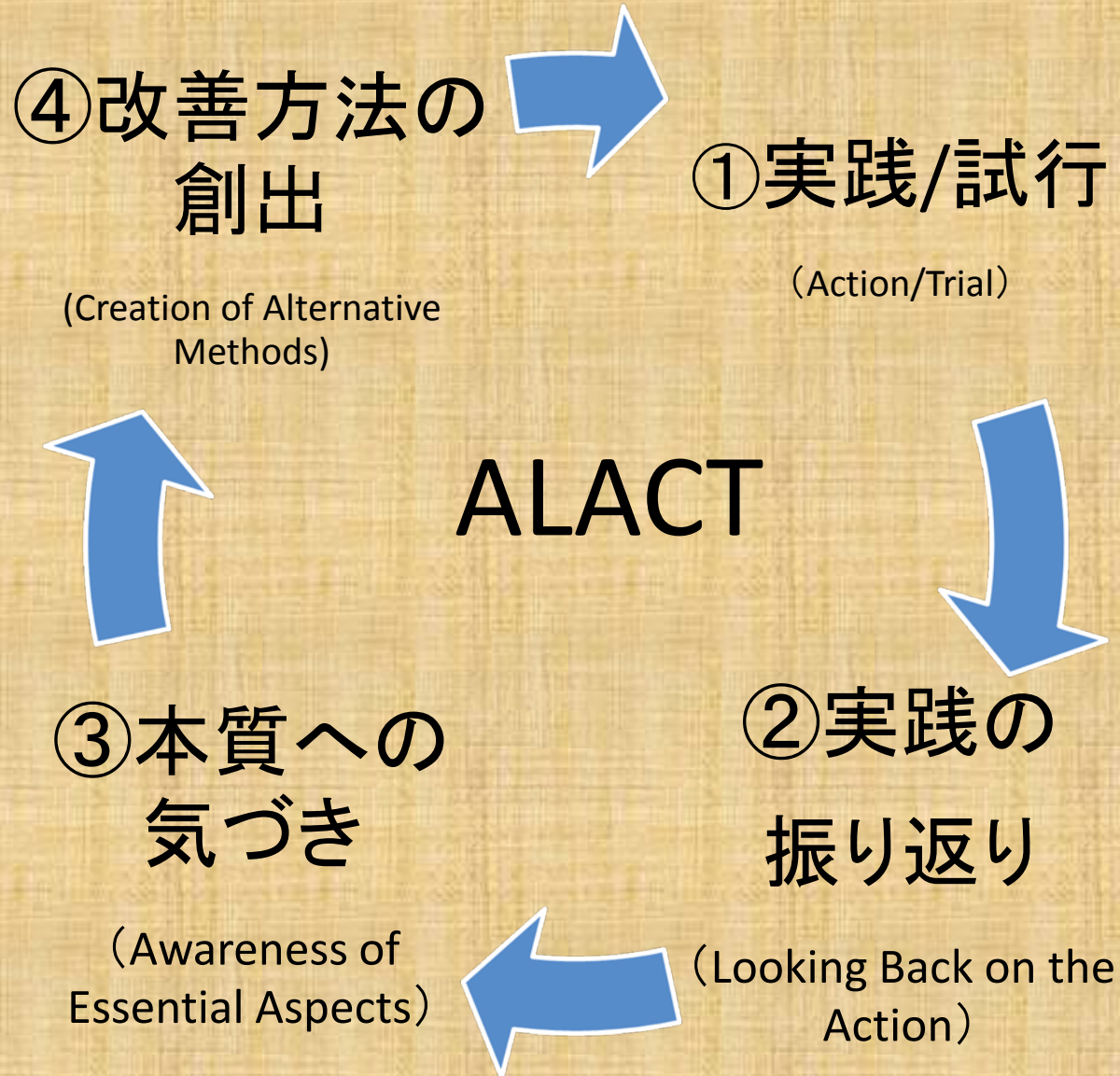
② Reflection- on- action

実践後における考察

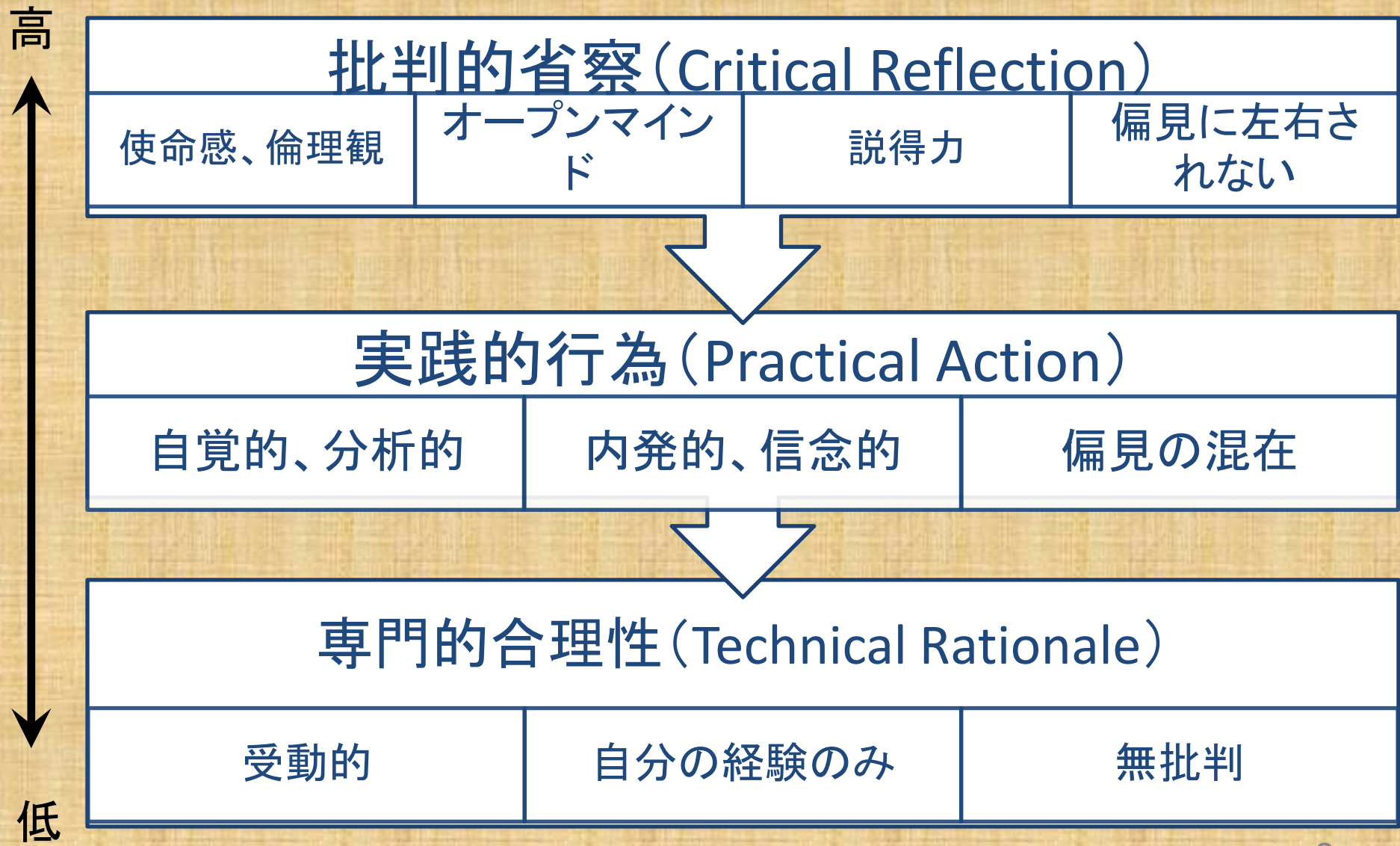
(cited in Smith, p.9)

※二つの省察は完全に分けて考えることはできない。

(2)Korthagen (1985)の総合的循環型省察的実践



(3) Pultolak (1993) の縦型省察的実践



5. 研究手法

探求型アプローチ

(Inquiry-orientated approach)

- ① 実習日誌
- ② 演習
- ③ 個別指導
- ④ 実習生相互の授業見学

「学生の省察的実践のための基盤」

(Collier, 1999)

6. 2008年度教職ゼミの実施形態

(1)現場実習実施校：公立1校、私立1校(高校)※いずれも実習生の母校ではない

(2)実習内容：授業補佐(政治経済および地理)

(3)実施形態

[前期]教育観の涵養

① 将来、教員として生徒に何を提供できるのか

② ①のために自分が努力できることは何か？

[後期]現場実習(9月～2月)

授業参観および授業補助

(4)実習日誌について

省察的実践のための手段として使用

7. 韓国人留学生Aについて

① 調査対象者として選んだ理由

ゼミ担当教員にとって一番の「異文化」

② 日本留学の動機

高校生のときに日本語の勉強を始めて日本語が好きになった。韓国の大学を1年で中退して、日本留学をする。

③ 教職ゼミの履修理由

- 卒業後は日本で就職したい。
- 教師希望理由は不明瞭

8. 留学生Aのある日の教育観

「教えてもらうことも重要だと思うけど
教えてもらったことを基本で自分が今
までよりもいい方法を見つけること」

(2008年4月23日演習のトランスクリプトから)

→ただ知識を教えるだけではなく自発的な
学びのきっかけの提供か？

9. 留学生Aの教育観

「人を変えること」

※自分は「変わらない」→教師は「知識を教える立場」で生徒は「教わる立場」

「私の場合は、ほかの人より、もっとなんか知りたいんですよね。知識的というか、知りたいんですよね。だからこそつ（高卒）でもいいけど（略）そういうひとよりは、ものよりはなんか知りたいってというか、だから教育をもらうんですけど」

（7月22日個別指導のトランスクリプトから）

10. 留学生Aの総合循環型省察的実践

すべての段階を踏まえた総合的循環型の省察的実践は見受けられなかった。

(例)

授業は私が問題を読んで生徒にどう思うのかを聞くような形でした。最初はちゃんと答えが返ってくるか心配でしたが、ものすごく答えが返ってきてよかったです。
(→でも、こういうことにほっとして、生徒から返って来た答えが当たったら説明をしてなかったが、答えが当たっても何でそうなるか分からない生徒もいたのでそういうことには説明した方がいいと思いました)(2009年12月15日の実習日誌より)

留学生Aの振り返り

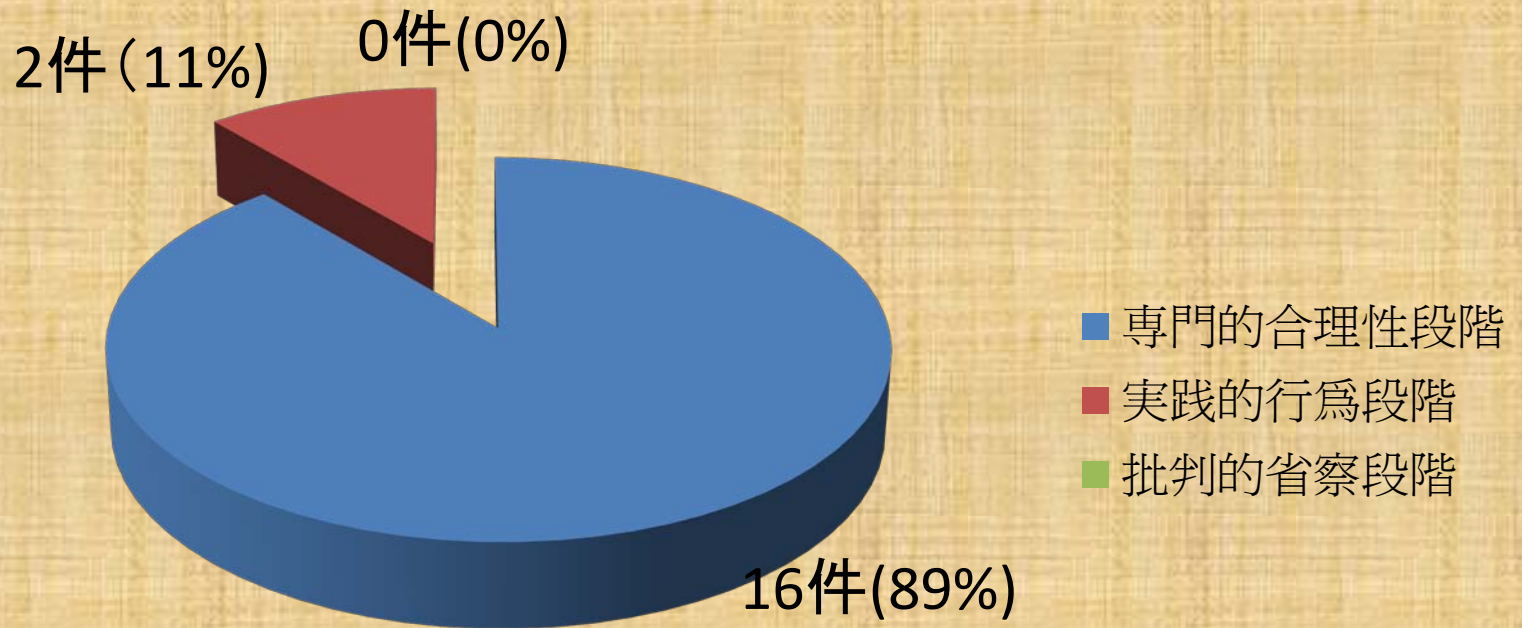
※発表者が実習ノート及び演習クラスのトランスクリプトを照らし合わせて、判断した。

留学生Aの振り返り

次回への対応策

11. 留学生Aの縦型省察的実践

縦型省察的実践 計18件



発表者が実習ノート及び演習クラスのトランスクリプトを照らし合わせて、判断した。

専門的合理性的段階省察の実践

生徒の反応
への受動性

実習生とし
ての意識が
見られない。

(例)

3年特進(* 原文は漢字ミス)クラスは始めてで、はじめ自己紹介をしました。生徒たちは私のことですごく興味を持ってくれてすごくうれしかったです。地図を書いて、私の地元を教えたり、冬のンナタ(* 原文ママ)の話もしたりしてすごく楽しかったです。(略)自己紹介をしていたら30分も過ぎてしまいました。

(2008年11月10日の実習日誌から)

実践的行為段階の省察的実践

(例)

今回授業を行う時は、正直、生徒のことが怖くて、何を話せばいいか分からなくなって最初2分は何も話せなかった。正直いうと、前回のことでこの生徒たちは自分がいくら頑張っても全く反応してくれないから今日やる部分さえやればよいと思っていた。

(略) 私は、生徒とコミュニケーションを取るためには、まず生徒への偏見を捨てるべきだと思った。

(2月13日の実習日誌から)

実習生としての自覚、内発性

12. 留学生Aの省察的実践への抵抗

- 担当教員や他の学生からのアドバイスにもかかわらず浅い省察的実践
- 実習日誌には毎回、漢字のミス、文法ミス(※同じようなミスが繰り返されている)

「なんでじぶんこれやってるんだらうってのがあって、これをやったら何がいいことあるんだらうってのがありました」

(2009年2月27日演習クラスのトランスクリプトから)

13. 留学生Aの学び

「新しい世界」との出会い

①自分をみつめる経験

②「自分の日本語は完璧」という
自信の揺らぎ

③教職での挫折から経済学への
興味関心→教職観の深化

留学生Aの最終レポートから

彼女の指導
教員に対する
希望？

「生徒は無限の可能性をもっている。
だから、1%可能性でもあったら生徒の
ことを応援するべきだと思う。生徒の
ことを分かってすることも挑戦
の一部である。この挑戦を続けるこ
とも現場で学んだことである。現場に
立つことは生徒への挑戦を続けるこ
とだと思う。」

彼女自身の言葉による
表現

14. 留学生Aの学びからの学び

留学生Aが遭遇した2つの「衝撃」

①「教職ゼミ」における「衝撃」

②現場実習における「衝撃」

→学習動機の喪失

(原因)

- 教育観の欠如
- 学習力の欠如

過去の経験からの強い影響

さらに言えば・・・

留学生Aは教師への強い思い入れ
がなかった

- 教育に対する問題意識がない
- 社会に対する問題意識がない
- ロール・モデルの不在

15. 大学教師としての問題意識

① 実習校には迷惑をかけられない。

しかし…

② (教育はきわめて身近な営みだからこそ) 多様な学生たちが実習に参加できる環境づくり(排除ではなく共習の論理)

→ そのような二律背反的状况で学生たちの学びをどのように「最大化」するのか？

16. 学びの実感を高めるために

Strategy of gradualness

(Korthagen, 1985)

① Structure

徐々に個々の学生たちに自律的な学習環境を与えて、達成感を高めていく

② Safety

受容、共感、励まし

参考文献

1. Collier, S. T. (1999). Characteristics of reflective thought during the student teaching experience. *Journal of Teacher Education*, 50(3) , 173-181.
2. Dewey, J. (1997). *How we think*. New York: Dover.
3. Korthagen, F.A.D.(1985). Reflective teaching and pre-service teacher education in the Netherlands. *Journal of Teacher Education*, 36(5) , 11-15.
4. Pultorak, E. G. (1993). Facilitating reflective thoughts in novice teachers. *Journal of Teacher Education*, 44(4) , 288-295.
5. Schön, D. A.(1984). *The reflective practitioner: how professionals think in action* . New York: Basic Books.
6. Schön, D. A. (1986). *Educating the reflective practitioner*. San Francisco: Jossey Bass.
7. Smith, M. (2008). *Donald schon(schön): learning, reflection and change*. Retrieved Dec 25th, 2008, from <http://www.infed.org/thinkers/et-schon.htm>
8. Trotman, J & Kerr, T. (2001). Making the Personal Professionals: pre-service teacher education and personal histories. *Teachers and Teaching: theory and practice*, 7(2), 157-171.